

【参考文献】

- * 関連する文献は多数あるが、本書で参照・引用したもの、現在比較的手ししやすいものにしほって掲出した。
- * シリーズの統一性および紙幅の都合により、本文では出典を明記しなかったところがある。先学各位にご寛恕を請う。
- * 丸島和洋編『論集 戦国大名と国衆一三 信濃真田氏』（岩田書院、二〇一四年）に再録された論考については「↓論集13」、同編『論集 戦国大名と国衆一四 真田氏一門と家臣』（岩田書院、二〇一四年）に再録された論考については「↓論集14」と註記した。
- 上田市教育委員会『上田城史料調査報告書（上田市文化財調査報告書第一一五集）』、二〇一三年
- 上田市誌刊行会『上田市誌 歴史編（6）真田氏と上田城』、二〇〇二年
- 上田市立博物館『真田氏資料集』、一九八三年
- 上田市立博物館『秀吉と真田 抄録版』、二〇一一年
- NHK・同プロモーション編『大河ドラマ特別展「真田丸」』NHK・同プロモーション、二〇一六年
- 大阪文化財研究所・大阪歴史博物館『大阪上町台地の総合的研究』大阪歴史博物館、二〇一四年
- 笠谷和比古『関ヶ原合戦と大坂の陣（戦争の日本史17）』吉川弘文館、二〇〇七年
- 笠谷和比古・黒田慶一『豊臣大坂城』新潮選書、新潮社、二〇一五年
- 唐澤定市「真田氏の吾妻郡攻略をめぐる」『信濃』三三一六、一九八〇年 ↓ 丸島13
- 北垣聰一郎「豊臣時代大坂城「本丸函」と「真田丸」について」岡本良一編『大坂城の諸研究』名著出版、一九八二年
- 栗原 修『戦国期上杉・武田氏の上野支配』岩田書院、二〇一〇年
- 黒田基樹『小田原合戦と北条氏（敗者の日本史10）』吉川弘文館、二〇一三年
- 黒田基樹『真田昌幸―徳川、北条、上杉、羽柴と渡り合い大名にのぼりつめた戦略の全貌―』小学館、二〇一五年
- 黒田基樹『豊臣大名』真田一族―真説 関ヶ原合戦への道―』洋泉社、二〇一六年
- 黒田基樹『真田信之―真田家を継いだ男の半生―』KADOKAWA（角川選書）、二〇一六年
- 小林計一郎『真田幸村』新人物往来社、一九七九年 ↓ 復刻版、文藝春秋（文春学藝ライブラリー）、二〇一五年
- 小林計一郎『真田三代軍記』新人物往来社、一九八六年
- 小林計一郎編『真田幸村のすべて』新人物往来社、一九八九年 ↓ 復刻増補版、KADOKAWA、二〇一五年
- 小林計一郎編『真田昌幸のすべて』新人物往来社、一九九九年

- 齋藤慎一「上野国岩櫃城の空間構成と変遷」『中世東国の領域と城館』吉川弘文館、二〇〇二年
- 坂井尚登「真田丸を復元する」歴史群像編集部編『真田戦記』学研、二〇一五年
- 桜井松夫「真田氏の貫高制―石高制に移行しなかった理由は何か―」『千曲』一〇九号、二〇〇一年
- 笹本正治『真田氏三代―真田は日本一の兵―』ミネルヴァ書房、二〇〇九年
- 真田町教育委員会『真田氏城跡群―その歴史と調査の概要―（真田町文化財調査報告書）』一九八二年
- 真田町教育委員会『真田氏給人知行地検地帳（真田町誌調査報告書第2集）』一九九八年
- 真田町教育委員会『真田町の遺跡―遺跡詳細分布調査報告書―（真田町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集）』二〇〇〇年
- 真田町誌刊行会『真田町誌』歴史編（上・下）、一九九八・一九九九年
- 信濃史料刊行会編『信濃史料』補遺巻上下、一九五七―一九六九年
- 信濃史料刊行会編『新編信濃史料叢書』4・5・8・18、一九七―一九七八年
- 柴辻俊六『真田昌幸』吉川弘文館、一九九六年
- 柴辻俊六『真田幸綱・昌幸・信幸・信繁―戦国を生き抜いた真田氏三代の歴史―』岩田書院、二〇一五年
- 柴辻俊六・平山優・黒田基樹・丸島和洋・柴裕之・鈴木将典編『武田氏家臣団人名辞典』東京堂出版、二〇一五年
- 千田嘉博『真田信繁「勝利」への条件』三笠書房、二〇一五年
- 曾根勇二『大坂の陣と豊臣秀頼（敗者の日本史13）』吉川弘文館、二〇一三年
- 竹井英文『織豊政権と東国社会―「惣無事令」論を越えて―』吉川弘文館、二〇一二年
- 寺島隆史『真田幸隆の実名・法名をめぐって』『信濃』六〇―二、二〇〇八年
- 寺島隆史『上田築城の開始をめぐる真田・徳川・上杉の動静』『信濃』六〇―一二、二〇〇八年 ↓ 論集13
- 寺島隆史『第一次上田合戦前後における真田昌幸の動静の再考』『信濃』六二―五、二〇一〇年 ↓ 論集13
- 寺島隆史『第一次上田合戦の再考』『千曲』一四五号、二〇一〇年 ↓ 論集13
- 寺島隆史『武田氏滅亡後の室賀氏の動静と真田昌幸』『信濃』六四―一一、二〇一二年
- 寺島隆史『海野衆真田右馬助の系統と真田氏』『信濃』六六―二、二〇一四年
- 寺島隆史『真田信繁（幸村）の証人時代再考』『信濃』六七―五、二〇一五年
- 中澤克昭『真田氏の本拠を訪ねて』『信濃』四六―一一、一九九四年 ↓ 論集13
- 長野市立博物館『山村に生きた武将たち―東の真田、西の大日方―』長野市立博物館、二〇一三年
- 原田和彦『真田幸村とは』『六連銭』二四、二〇〇八年 ↓ 論集14
- 平山 優『真田三代―幸綱・昌幸・信繁の史実に迫る―』PHP研究所、二〇一一年
- 平山 優『武山遺領をめぐる動乱と秀吉の野望―天正壬午の乱から小田原合戦まで―』戎光祥出版、二〇一一年
- 平山 優『長篠合戦と武田勝頼（敗者の日本史9）』吉川弘文館、二〇一四年
- 平山 優『検証 長篠合戦』吉川弘文館（歴史文化ライブラリー）、二〇一四年
- 平山 優『増補改定版 天正壬午の乱―本能寺の変と東国戦国史―』戎光祥出版、二〇一五年
- 平山 優『大いなる謎真田一族―最新研究でわかった100の真実―』PHP研究所（PHP文庫）、二〇一五年
- 平山 優『真田信繁―幸村と呼ばれた男の真実―』KADOKAWA（角川選書）、二〇一五年
- 福田千鶴『淀殿』ミネルヴァ書房、二〇〇七年
- 福田千鶴『豊臣秀頼』吉川弘文館、二〇一四年
- 藤木久志『豊臣平和令と戦国社会』東京大学出版会、一九八五年
- 松下 愛『松代藩初代藩主「真田信之画像」』『松代―真田の歴史と文化―』第一八号、松代文化施設等管理事務所、二〇〇五年
- 松代文化施設等管理事務所『真田三代―近世大名への道―』二〇〇二年
- 松代文化施設等管理事務所『真田宝物館収蔵品目録 長野県宝 真田家文書』(1)～(4)、二〇〇四―二〇〇七年
- 松代文化施設等管理事務所『真田宝物館収蔵品目録 精選 絵図集成』、二〇〇九年
- 丸島和洋『高野山蓮華定院』真田御一家過去帳（上・下）『信濃』六四―一〇・一一、二〇一二年
- 丸島和洋『信濃真田氏の系譜と政治的動向』同編『論集 戦国大名と国衆13 信濃真田氏』岩田書院、二〇一四年
- 丸島和洋『真田氏家臣団の基礎的研究』同編『論集 戦国大名と国衆14 真田氏一門と家臣』岩田書院、二〇一四年
- 丸島和洋『真田弁丸の天正一〇年』『武田氏研究』第五二号、二〇一五年
- 丸島和洋『図説 真田一族』戎光祥出版、二〇一五年
- 丸島和洋『真田四代と信繁』平凡社新書、二〇一五年
- 宮島義和『戦国領主真田氏と在地世界』六一書房、二〇一三年
- 山中さゆり『大平喜間多の著作とその活動』『松代―真田の歴史と文化―』第一九号、松代文化施設等管理事務所、二〇〇六年
- 渡邊大門『大坂落城 戦国終焉の舞台』角川学芸出版（角川選書）、二〇一二年
- 和根崎剛『「山家の真田氏館跡推定地」出土の古銭について』『千曲』第九七号、一九九八年
- 和根崎剛編（笹本正治監修）『資料で読み解く 真田一族』郷土出版社、二〇一六年